



RODA ニュースレター

一般財団法人 麗澤海外開発協会 会報
Reitaku Overseas Development Association

令和7年
(2025)
第38号
9月20日

巻頭企画

廣池会長と語る
誌上座談会

タイ

PHUAN

ネパール

Be a bridge!

カンボジア

Plas+

麗澤で学ぶ

私たちの国際協力とは

RODA (麗澤海外開発協会) が支援する麗澤大学の3つの国際協力団体。その主要な学生メンバーと当協会の廣池幹堂会長が、海外の現状や支援活動の課題、喜び等について語り合いました。学生たちのリアルな声と、国際協力に心を寄せ続ける廣池会長の視点から、これからの国際協力のあり方、学生の可能性を深掘りした座談会の模様をお届けします。

PHUAN 副代表

外国学部外国語学科
英語コミュニケーション
専攻2年

秋葉 滉太

Plas+ 副代表

外国語学部外国語学科
中国語・
アジアグローバル専攻2年

平野 楓

Plas+ 代表

経済学部
経済学科
経済専攻3年

渡邊 光起

Be a bridge! メンバー

国際学部国際学科
国際交流・国際協力
専攻2年

磯野 由希愛

PHUAN 代表

外国語学部
外国語学科英語・
リベラルアーツ専攻3年

阿部 咲優妃

Be a bridge! 代表

国際学部国際学科
国際交流・国際協力
専攻3年

田代 彩華

RODA会長 廣池 幹堂

国際協力、それぞれの物語

会長 今日は皆さんとこうして会えるのを楽しみにしていました。RODAの設立は昭和46年だから、皆さんのお父さんやお母さんが生まれた頃から、RODAは活動をしていることになりそうです。今日の3つの団体の中で、いちばん長く活動しているのはどこになりますか？

阿部 多分、私たち「プアン(PHUAN)」ではないでしょうか。2000年に結成されてから、今年で25年になります。サークル名は「仲間」を意味するタイ語から来ていて、“みんなの笑顔と未来のために、地球規模で物事を捉え行動する”をモットーに、タイ北部の支援先を拠点にして活動を続けています。

会長 タイ北部といえばRODAが長年支援する「メーコック財団」がありますね。

阿部 はい。まさにそのメーコック財団と、同じタイ北部で教育支援に取り組む「ルンアルン(暁)プロジェクト」が私たちの拠点です。どちらも、教育の機会に恵まれない山岳少数民族の子供の自立をサポートする施設で、私たちは日本でタイの民芸品やルンアルン(暁)プロジェクトの有機栽培コーヒーを販売し、そこで得た売上げを支援金として現地に送っています。

会長 実際にタイの現地にも行きますか？

阿部 行きます。この夏も8人のメンバーと一緒にタイに渡り、施設でボランティア活動などをしてきます。

会長 メーコック財団の施設は昨年の9月に洪水で大きな被害を受け、まだ復旧の途上だと思います。しっかりボランティアしてきてくださいね。そのタイのお隣、カンボジアを拠点にするのが「Plas+」の皆さんですね。

渡邊 はい。私たちは「present love to all students ~すべての子どもたちに愛を~」をモットーに、カンボジアで教育支援を行う国際協力団体です。2024年度で設立10周年を迎え、これまでカンボジアのトムオー小学校、ベンロヴィア・レー小学校、トラム・クラ小学校の3校を中心に、子供の学びと成長を支援する活動を続けてきました。

会長 その3校はRODAの資金援助によって建

てられた小学校でした。そこに通っている現地の子供たちと直接、交流を？

渡邊 はい。現地では学校のフェンスや遊具の建設のほか、体を動かす楽しさを知ってもらう運動会を開催したり、日々の生活で使えるトートバックを作る授業をしたりしています。

会長 みんながカンボジアの学校に行って運動会を？学校独自ではやらないんですか。

渡邊 カンボジアの学校では図工や体育といった情操教育がほとんど行われてないんです。そこで、学びと成長の環境を少しでも改善できるようにとの思いから、運動会プロジェクトが始まりました。運動が得意な子も苦手な子も参加できるよう工夫したり、チーム全員で力を合わせる綱引きも取り入れたり、体を動かす楽しさを知ってもらうことを目的にしています。

会長 まさに心や感性を育てる教育ですね。そうした経験から刺激を得て、将来に夢を持ち始める子も増えるかもしれませんね。「Be a Bridge!」も活動の拠点は小学校ですか。

田代 そうなんです。私たちBe a Bridge!は、ネパールの小学生と中学生を対象に、環境衛生の大切さを伝える授業をしています。

会長 ネパールの学校で環境衛生を？

田代 はい。ネパールはアジアで特に貧しい国



【Plas+】カンボジアの小学校で古着をプレゼント



【Be a bridge!】ネパールの小学校で子供たちと

の一つとされており、国全体の衛生状態もよくありません。首都カトマンズでさえトイレが足りず、生ゴミも資源ゴミも分けずに一緒に捨てられています。そこで私たちは、ネパールの子供たちに、手洗いの仕方やゴミ分別のメリットを楽しく教えることで、未来の可能性を広げ、新たな経験を作るお手伝いをしています。

会長 なるほど。日本から教材なども持っていくのですか。

田代 昨年渡航した時に、現地からリクエストのあった理科室の備品を寄付してきました。6月の「伝統の日」で皆さんからお寄せいただいた募金のおかげで購入できたんです。この夏は、その備品を活用し、子供たちの理科への興味をもっと高められるような体験型の楽しい実験などもやっていきたいと準備しています。

「また会いたい」その笑顔が原動力

会長 タイ、カンボジア、ネパールとそれぞれのエリアでニーズに応える支援をしてくれていることが、よくわかりました。どの団体もこの夏、現地に渡航する点は共通していますね。この中で今回初めて渡航する人はいますか？

磯野 はい、私はこの夏の渡航で初めてネパールに行きます。不安もありますが、渡航経験のある先輩から「子供たちのいい笑顔に出会えるよ」とずっと聞いていたこともあり、準備した成果が子供たちの笑顔につながるといいな、というワクワク感で今はいっぱいです。

秋葉 僕も今回が初めてです。海外に行くこと自体が初めてなので、結構緊張しています。

会長 あなたはプアンだから、初めての海外がタイですね。首都のバンコクから支援先までは車ですか？

秋葉 いえ、バンコクから支援先のチェンライまで、また飛行機です。みんなと行くので大丈夫とは思いますが、タイ語の勉強がまだ全然足りてなくて。海外で支援活動をするときに、言語的な能力は確実に求められると思うので、この夏の渡航を通じて、僕のタイ語がどれだけ通じるのか、今後の支援につなげる経験ができ



【PHUAN】 タイ北部メーコック財団でボランティア

たらいいなと思っています。

会長 海外に行くと日本との違いを思い知りますよね。現地に行った経験のある皆さんは、どんなことを感じましたか。

平野 カンボジアで最も衝撃的だったのは、都市部と農村部の格差です。首都のプノンペンではそこそこのモールのような商業施設もあり、道もきれいで、すごくキラキラした都市だなという印象でした。ところが、学校がある農村部へ向かうにつれ、道はガタガタとなり、景色全体がどんどん赤茶色に変わっていくんです。

会長 日本は都市部も地方も基本的には道も電気や水道もインフラは設備されていますよね。でもカンボジアはそうじゃないと。

平野 はい。農村部では今も停電が頻繁に起き、小学校に水が出る場所がないのも当たり前です。インフラと生活環境が都市とはこんなにも違うのかと、とても驚きました。

会長 行ったからこそ学べることですね。日本との違いも踏まえながら、現地の望む支援を続けていくのは決して簡単ではなく、時には思い通りに運ばないことだってあるでしょう。それでもやり続ける原動力はなんですか。

平野 ここまで活動を続けてこられた原動力は、現地で出会った子供たちの存在です。正直、Plas+の活動を始めた当初は、カンボジアの現状も知らず、実感もわからず、ただミーティングに加っただけでした。それが初めて渡航した時、小学校に着くなり子供たちにワーッと囲まれて。「来てくれた!」みたいな本当にキラキラした笑顔なんです。車を出た瞬間に両手が子供たちの手で塞がってしまうみたいな。あの笑顔にまた出会うために、その笑顔をもっと輝かせられる支援がしたい。その思いが私の原動力です。

渡邊 今、平野さんが言ってくれたように、Plas+では全員が「どのようなことをしたら子供たちが笑顔になってくれるか」という点を意識して活動しています。みんなで試行錯誤をしながらプロジェクトを成功させていく中に、私たち自身の成長もあるのだと感じています。

会長 子供たちの笑顔が活動の原動力、素晴らしいね。プアンのモットーも「みんなの笑顔と未来のために」でしたね。

阿部 はい。タイ北部で生活する山岳少数民族は、麻薬や貧困などの問題を抱えており、メーコック財団には親と離れて暮らさざるを得ない子供がたくさんいます。みんな複雑な背景を持っているのに、それを感じさせない笑顔で、いつも私たちを待っていてくれるんです。環境を受け入れ、環境の中で生きていく。そんな子供たちの笑顔と未来につながる活動をしたいというつもっています。

■ 広がった視野、深まった感謝

会長 皆さんは各団体の代表や主要メンバーとして、みんなをまとめ、引っ張っていく役割も担っていますよね。リーダー役として日頃どんなことを心がけていますか。

田代 私は人をまとめる立場とかやったことなく、代表なんてまったく自信がなかったんです。特にBe a Bridge!は今、最上級生の3年生が私一人で、渡航経験があるのも私一人。メンバーの一人ひとりがどんなことを不安に思っているのかを丁寧に聞き、丁寧に答えていくことをいつも心がけています。由希愛ちゃんをはじめ2年生たちの力も借りながら、自分ができることを頑張ろうと思っています。

磯野 私はもともと心配性なこともあり、初めてのネパール渡航を前に、田代先輩にいろいろと質問しまくってます(笑)。なのに、いつも嫌な顔一つせず丁寧に答えてくださって。安心して活動ができています。

会長 国際協力という志に向かって、正面から真摯に取り組んでくれていることが伝わってきました。活動で得た学びや経験は、日頃の麗澤



大学生としての学生生活や自身の成長にどうつながっていると感じますか。

磯野 私はBe a Bridge!の活動を通じて、自分の視野がものすごく広がったと感じています。知らなかった世界に目を向けることで、普段の授業やニュースの見方が変わり、社会とのつながりを感じながら学べるようになりました。

会長 何気なく見ていたニュースも自分事として見れるようになったんですね。

秋葉 僕はプアンに入り、どうすればタイの現地が望む支援ができるかを考えることを通じて、今まで自分がどれだけ多くの人に「支援されてきたか」を実感するようになりました。学生である僕たちは保護者や教授、その他の人たちの助けがあるからこそ、今を生きていけます。支援されている側に立っている僕たちが、支援する側に立つ経験を通じて、感謝の気持ちがより強いものとなることを感じています。

会長 これまで支えてくれた、いろんな人のおかげに気づけたんですね。ぜひその感謝の心を大切に、新鮮な目で海外を見てきてください。見るもの触れるもの何でも吸収してやろうという気持ちでね。その成長が、支えてくれた人の願いに応えることになりますから。

海外にいくと、日本の先人が行ってきた支援を今も忘れず感謝し、日本人を尊敬してくれている国がたくさんあることに気づきます。何十年たってもその恩は決して忘れないと。その言葉どおり、東日本大震災の時に手を差し伸べてくれた国がたくさんあるんですね。私たちは「支援する側」になることが多いですが、一方で、いろんな人や国から支えられているおかげで、今の日本がある。そんなことも意識しながら、元気に旅立ってきてくれたらと思います。日本に帰ってきたらまた会いましょう。報告を楽しみにしています。



第19回 タイ・スタディツアーを開催



2025年2月18日から2月26日の9日間にわたり、麗澤大学生7名が参加し、教員1名、事務局2名の引率の下、タイ北部の支援プロジェクトを訪問しました。各プロジェクトのお話を現地で活動する方々に直接聞き、ボランティア活動に参加したほか、子供たちとの交流や少数民族の村の文化を体験しました。

チェンマイからチェンライへ、タイ北部を巡った9日間。ルンアルン(暁)プロジェクトでは自然との共生を学び、山岳民族の村でのホームステイでは、慣れない生活に戸惑いながらも、人の温かさに深く触れました。旅の終盤に訪れたメーコック財団では、洪水被害の現実を前に復興作業に汗を流し、困難に屈しない人々の強さを知りました。国境の街を訪れ、現地の大学生と未来を語り合ったことも代えがたい経験です。一つ一つの出会いが学生たちの「当たり前」という価値観を揺さぶり、その表情を日に日にたくましく変えていきました。この貴重な学びに感謝し、縁あるすべての皆様に心より御礼申し上げます。(事務局/富田裕之)

タイ・メーコック財団 研修寮が完成！



昨年9月にタイ北部を襲った豪雨により大洪水の被害に見舞われたメーコック財団。施設内のほとんどの建物が浸水しましたが、皆様からお寄せいただいた支援により、6月にはトイレやシャワーを完備した研修寮が完成しました。皆様からのご支援に心より感謝申し上げます。当協会の支援金が引き続き生かされ、子供たちの寮の建設も進んでいます。子供たちが安心して生活し、将来への希望を持って成長していけるよう、息の長い支援を続けてまいります。



スタディツアーの学生も建設に参加



壁には当協会をはじめ
支援団体の名前が刻まれている





教育が私を変える力だった

感謝を胸に歩むサシトーン・マーユーさん

タイの少数民族「アカ族」として生まれ、6歳からメーコック財団で寮生活を送ったサシトーン・マーユー（愛称：アネー）さん。RODAが事業を支援する「国際労働財団」(JILAF)のタイ事務所でコーディネーターとして活躍中です。「タイと日本の架け橋になりたい」と語る思いをオンラインで伺いました。



Q アネーさんは大学卒業後、2021年から(公財)国際労働財団タイ(以下、JILAF)でご活躍中と伺いました。JILAFではどんな活動を？

A JILAFは労働分野を中心に国際協力を進める日本の財団で、私はそのタイ事務所のコーディネーターとして働いています。主な活動は、政府の公的サポートの行き届かないインフォーマルセクターの労働者の支援です。例えば、農業や漁業、バイクタクシーの運転手など、個人で生計を立てている人のイメージですね。その多くは貧困層や移民で、社会保険に入れず自らの権利も知りません。そうした人々の生活改善をめざし、法律の知識を伝えるセミナーや職業訓練による技能向上支援、互助団体づくりなどを行っています。タイ事務所は麗澤大学OBの関口輝比古所長のもと、4人しかいないので大変ですが、新しいことに挑戦することは大好きなので、毎日楽しいですよ。

教育が拓いた道——

メーコック財団での出会いと日本語への挑戦

Q NGOの団体で働くきっかけは？

A メーコック財団での経験があったからです。



メーコック在寮時代(右端)

私は早くに父を亡くし、双子の姉とともに6歳からメーコックの寮に入りました。寮の仲間は教育機会に恵まれない少数民族出身者がほとんどです。その私たちが学校に通えるようになり、早起きして料理や洗濯など、自立を覚えることができたのはすべてメーコックのおかげ。私のセカンドホームです。そのメーコックを支えてくれていたのが、RODAをはじめとする日本のNGOでした。「いつか自分の力で恩返しをしたい」「困難な状況にある人々の自立に貢献したい」。その思いがずっと、心の中にありましたね。

Q 日本語の勉強はいつごろからですか。

A 高校に入ってからです。メーコックに毎年来てくれる麗澤の学生と話をしたと思っていました。でも、当時の私は日本語ができず、見ぶり手ぶりでした。悔しい、もっとコミュニケーションを取りたい。その思いが原点です。「教育には貧困を^{*}抜け出す力がある」というピパット先生の言葉を信じ、15歳でメーコックの寮を出て、日本語を学べる高校に進む決意をしました。とはいえ、一人親の母に余裕はなく、自分の力で道を拓かなければなりません。高校卒業後に2年間働いて学費を稼ぎ、政府の奨学金も借りて、ようやく大学への入学を叶えられたのです。その結果、卒業は普通の人より2年遅れることになりましたが……。それからチェンライ・ラチャパット大学の日本語学科2年生の時に挑んだ、日本語スピーチコンテストで優勝し、上智大学へ1年間、奨学金で留学できることになったんです。

Q 夢見ていた日本の生活はどうでしたか。

A すべてが新鮮で、もうタイに戻りたくないと思いましたね(笑)。電車は時間に正確で、食べ物

*メーコック財団創設者の一人で、活動責任者として子供たちに寄り添い続けた。(享年66)

すべてが美味しくて、夢のような1年でした。

Q このインタビューも流暢な日本語で答えてくれています。日本語能力試験で最高レベルのN1をお持ちですね。合格を勝ち取るまでの道のりで思い出されることといえば？

A とにかく必死で勉強しましたね。1番難しいのは漢字です。書けないし、読めないし、漢字は今でも大嫌いですよ(笑)。何度も気持ちが負けそうになりましたが、最後までやりきることができました。

日本の若者に伝えたい “当たり前”ではない現実

Q 昨年(2024年)末も、麗澤高校の生徒がツアーでタイに渡航した際は、案内をいただくなど大変お世話になりました。日本の若者には、どんなことを学びとってほしいですか。

A 日本にただいだけではわからないこと、特にタイの「格差」の現実を知ってもらいたいですね。タイは世界で最も貧富の格差が大きい国の一つとされ、所得の格差が教育の格差となる深刻な現状があります。日本にいと、教育を受けられるのは「当たり前」と思いがちでしょうけど、タイでは決してそうではない。アカ族出身の私が今、こうして思い描いた道を進めているのは「教育」のおかげです。それがなかったら普通に村で結婚し、子供を産んで生きていく選択肢しかなかったでしょう。教育を受ける権利はあっても、親がその必要性を感じていないという問題もあります。

Q 目の前の生活がそれだけ苦しいという現実があるのですね。

A 移民の場合、言葉の問題もあります。タイ語がわからなければ授業についていけません。また差別の問題も深刻です。私自身、学校では少数民族出身ということで、言葉のいじめを何度も経験しました。日本では考えられないでしょうけど、出身を隠す人も少なくありません。例えば、就職活動の時にスラム出身と知られると雇われなくなる、知られた翌日から長年の友人と連絡がつかなくなる。そんな現実を痛いほ



麗澤高校生とミャンマー移民の子供たちとのクリスマス会にて通訳をするアネーさん(右端)

ど知っているからです。もちろん、出身に関係なく優しくしてくれる人もいますよ。ピパット先生は、タイ人ですが、少数民族出身の私たちを何一つ差別せず、むしろ自分の子供同然に育ててくれましたから……。なんでタイ人の子供でもない私たちにこんなにしてくれるんだろうと。子供心にずっと思っていました。

Q 在りし日のピパット先生について、どんな思い出が心に浮かびますか。

A ある日、「危ないから行っちゃいけないよ」と言われていた川に、こっそり数人の仲間と遊びに行ったんです。それがバレてしまって、ピパット先生に長い棒でお仕置きをされました。すごく痛かったのを覚えています。その後でした。先生が台所で一人、涙を流しているところを見かけてしまったんです。叩かれた私も痛かったけど、先生の心はそれ以上に痛かったんだと思います……。本当に分け隔てなく温かく接してくれる、お父さん同然の存在でした。

Q 最後に、RODAに期待したい支援といえばどんなことですか。

A RODAがスラムの子供たちやメーコックを支援してくださることに、携わった者として心から感謝しています。私のように幸運な子供がいる一方、タイには今も支援の届かない子供たちが大勢います。どうか、そうした子供たちへも継続的なご支援をお願いいたします。

メーコックでの出会い、私を助けてくれた人々への感謝を思うたび、「どうにかして恩返しをしたい」という気持ちが込み上げてきます。その夢を叶えるため、いつかタイと日本の文化をつなぐ“架け橋”となり、日本のためにも働いて、いただいたご恩を未来へ返していきたいです。

Q ありがとうございます。

たくさんのご支援、ありがとうございます

〈令和6年4月1日～令和7年8月31日〉掲載に同意された方をご紹介します。(順不同)

会費	廣池幹堂、甲良昭彦、木下廣太郎、関哲夫、山口明、新井秀啓、内田八代、長谷和治、土谷和光、渡辺康博、桑山清和、中村修一、横山守男、杉浦廣道、山本祥子、柏谷康博、大谷誠之、今井收、長谷篤治、山田雅雄、小野剛、松本哲洋、小西直之、古川定邑、俣野幸昭、桑島義智、梅村元成、和田悦治、井上源一、黒須里美、山本浩、太田徳昭、増田一江、小林雅純、永治達彦、古川益二、濱井利一、福井博康、桑島朋子、平塚靖永、須見好和、松岡孝柊、黒白常光、木津孝道、河村満、風澤俊夫、岸上肇、菅間正則、井川好長、岩田英志、横山明弘、菅澤運一、福田靖久、三木実、大山圭子、長谷真千子、田中一宏、板垣廣光、田中聖則、沖野二郎、北川治男、村瀬泰比古、鈴木貞夫、淡島成高、雲丹亀宏明、鈴木孝明、青木久子、結城保、赤松良平、石田弘、田口英樹、加藤純一、富士俊隆、加島亮伸、飯島孝夫、田中裕子、藤田和広、福代明正、濱島直隆、北澤泰子、西邑喜代子、佐久間三郎、神永正男、井上景介、我孫子利和、田中孝夫、廣池加津子、落合博志、富田裕之、和田淳司、西村晴夫、長谷愛子、吉山八郎、岡部征次、藤村薫、合資会社川貞商店、有限会社弘明堂、村田ボーリング技研株式会社、佐藤薬品工業株式会社、山口保安工業有限会社、森口製粉製麺株式会社、株式会社三国一、株式会社ピアかざりや、川越・富士見モラロジー事務所、堺北野田モラロジー事務所、廣池学園モラロジー事務所、大田モラロジー事務所、相生モラロジー事務所、世田谷モラロジー事務所、東京港モラロジー事務所、小松島モラロジー事務所、福井東モラロジー事務所、加古川モラロジー事務所、岸和田モラロジー事務所、泉大津モラロジー事務所、和歌山モラロジー事務所、埼玉県モラロジー協議会、鹿行モラロジー事務所、焼津モラロジー事務所、高松モラロジー事務所、若狭モラロジー事務所、盛岡モラロジー事務所、目黒モラロジー事務所、美馬モラロジー事務所、有田モラロジー事務所、香椎モラロジー事務所、帯広モラロジー事務所、堺北モラロジー事務所
準会費	長谷憲治、高野橋健吉、尾崎哲子、杉山蒼真、石川理彩、高木千夏、安田穂乃花、藤波柊真、吉川愛優香、田村江莉果、俣野喜代美
一般寄付金	廣池幹堂、木下廣太郎、山口明、内田八代、長谷和治、渡辺康博、横山守男、杉浦廣道、山本祥子、長谷篤治、山田雅雄、藤村薫、俣野幸昭、山崎純雄、和田悦治、大住敬一、福井博康、井上照悟、俣野貴昭、松岡孝柊、井川好長、木崎重安、横山明弘、俣野喜代美、俣野智美、澤政利、藤尾侑男、杉山雄彦、橋本光世、三浦順治、山田武司、森田政見、沖野二郎、尾崎哲子、岩永和美、青木久子、田口英樹、奥光明、松崎祥恵、加島亮伸、福代明正、井上景介、上萩洋三、藤田和広、鈴木強、落合博志、木野稔、長谷愛子、宇佐美修造、笠田環嗣、笠原伸泰、笠原やす子、加藤信次、加藤やよい、加藤芳彦、神田茂、北敬子、橘高重久、雑賀正光、齋藤壽子、佐久間八重子、柴垣明昌、島崎執、関俊章、高坂賢吉、寺坂富俊、内藤富博、長井孝介、中岡大作、西村忠雄、野口與納助、野中康弘、橋本皇子、堀川末雄、前島義人、増田顕次郎、三浦洋嗣、光安輝雄、御代川克之、野田ミート株式会社、株式会社ダイキョープラザ、株式会社小松製菓、三信株式会社、山口保安工業有限会社、株式会社三国一、静岡県モラロジー協議会女性クラブ、四日市西部モラロジー事務所、堺北野田モラロジー事務所、大阪東淀川モラロジー事務所、和歌山モラロジー事務所、美津島モラロジー事務所、若狭モラロジー事務所、宮城県北部モラロジー事務所、福知山モラロジー事務所、千代田モラロジー事務所、流山モラロジー事務所、京都伏見区モラロジー事務所、福井西モラロジー事務所、山形県モラロジー協議会、津山モラロジー事務所、大阪住吉モラロジー事務所、京丹後モラロジー事務所、小松能美モラロジー事務所、埼玉県モラロジー協議会、名古屋東モラロジー事務所、大阪旭モラロジー事務所、静岡市葵モラロジー事務所、今治南モラロジー事務所、長崎北部モラロジー事務所、春日部モラロジー事務所、坂井モラロジー事務所、長野モラロジー事務所、尾道モラロジー事務所、帯広モラロジー事務所、旭川モラロジー事務所、今治モラロジー事務所、堺北モラロジー事務所、高浜モラロジー事務所、新潟モラロジー事務所、吉賀モラロジー事務所、米子モラロジー事務所
竹原基金	廣池幹堂、木下廣太郎、山口明、内田八代、長谷和治、横山守男、杉浦廣道、山本祥子、柏谷康博、長谷篤治、山田雅雄、山本浩、俣野幸昭、桑島義智、和田悦治、福井博康、桑島朋子、松岡孝柊、三木実、森田政見、沖野二郎、岩永和美、青木久子、山田莊一、藤田和広、野瀬昌彦、長谷愛子、富田裕之、笠原伸泰、片山道則、加藤信次、桑島祥子、小林一正、島崎執、鈴木洋子、千葉静子、内藤富博、長井孝介、三浦洋嗣、村松正章、山口保安工業有限会社、支援キルトの会ふーぷ、堺北野田モラロジー事務所、福井西モラロジー事務所、大垣モラロジー事務所、長野モラロジー事務所、帯広モラロジー事務所

会員 寄付金 竹原基金

を募集しています

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は掲載させていただきます。不要の方は、振込用紙の通信欄にその旨を記入いただくか、事務局までお知らせください。

種類	年額
会費	1口 1万円(1口以上)
法人会員	1口 1万円(1口以上)
準会員	1口 2千円(1口以上)
寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替

口座番号 00120-6-499164
名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会

銀行口座

三菱UFJ銀行 松戸西口支店
普通 4057567
名義／一般財団法人 麗澤海外開発協会
※通信欄に寄付等の種類をご記入ください

RODA ニュースレター

September 2025

vol.38

発行元 一般財団法人 麗澤海外開発協会

発行人：木下廣太郎
編集人：富田裕之

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3165

E-mail kaikyo@ad.reitaku-u.ac.jp
HP https://www.reitaku.or.jp/

公式SNS はじめました

@roda_kaikyo

